

## 2016年4月～活動評価指標

		最高レベル	発展レベル	標準レベル	未熟レベル
		まわりへの利益、次につながる 知の深化、真の理解がみられる	意欲に加えプラスの価値を見い だせる	授業に参加する意欲がある	授業にいただけ
点数		5	4	3	1
協働性 (A)	(ア)ペアやグループで互いに協力し合おうという姿勢が見られたか。	目的を見据え、さらにグループ内での自身の役割や立場を考慮した上でなすべき仕事を果たし、それがグループの目的達成や向上につながった。	目的を見据えたうえで互いに協力し合い、問題解決のための自身の役割を考えながら行動できた。	互いに協力し合って問題解決に向かい、よりよい解を見つけようと努力できた。	常に受身でしか問題に対応できず、他者と協力し合おうという意識が希薄であった。
	(イ)ペアやグループの活動が活発になるよう努力できたか。	不参加のメンバーに気付きを促し、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ねたり統合したりすることでチーム全体の活動を活発化させた。	他のメンバーの見方を咀嚼して全体の理解につなげたり、複数の見方を統合して話し合いを促進するなど、メンバーが積極的に参加できるよう配慮した。	発言の順番を回したり他者の意見を遮らずに傾聴したりすることで、メンバーが気持ちよく活動に参加できるよう配慮した。	自ら発言しようとはせず、グループの活動を前進させようとする意欲にも乏しかった。また、ムダ話や雑談でグループ活動を妨げた。
主体性 (B)	(ア)自分の考えを持って授業に参加し、それを他者に伝えられたか。	自分の考えを持ち、異なる立場の相手にも配慮工夫しながら伝え、相手の理解も確かめることができた。	自分の考えを持ち、それを相手にわかるように工夫しながら伝えることができた。	自分の考えを持ち、それを相手に伝えようと努力できた。	自分の考えが持てなかったり、持っていたとしてもそれを相手に伝えようと努力することが足りなかった。
	(イ)積極的に対話し、理解を深めることができたか。	積極的に発言し、自らの発見や相手の思考の深化を導いた。	積極的に会話し、考えを深めたり解答の糸口を掴んだりできた。	活動中一回以上発言し、自分の考えを相手に伝えようと努力できた。	他人の発言を聞くだけで自ら発言することはできなかった。
	(ウ)探究心を持って取り組むことができたか。	わからない事柄を自覚し、粘り強く取り組んで真の理解に至った。	わからない事柄を自覚し、調べたり尋ねたりしながら理解できた。	わからない事柄を調べたり相手に尋ねたりしてわかろうと努力できた。	わからない事柄が不明瞭or解決しようとする努力が足りなかった。
	(エ)前向きに課題に取り組む、仕上げるのができたか。	与えられた課題を仕上げ、知識やスキルを定着させると共に、能力を拡大しようとしてさらに追求した。	与えられた課題を仕上げ、知識やスキルを定着し得た。	与えられた課題を仕上げ、知識やスキルを確認できた。	与えられた課題に取り組もうとする意欲がみられなかった。
多様性 (C)	(ア)自分と異なる他者の意見に耳を傾け、相互理解がはかれたか。	相手と自分の意見・立場等の相違点を十分に理解し、それを踏まえて相互理解をはかり、自身を含めたメンバーが考えを深めたり広げたりできた。	相手の話を聞き、それを十分理解した上で自分の見解や立場を相手に伝え、互いの相違点を明らかにして相互理解ができた。	相手の話を聞くだけでなく、自分の見解や立場を相手に伝えることもできた。	相手の話を聞くことが主となり、自分の見解や立場をほとんど説明できなかった。
	(イ)複数の異なる立場を踏まえ、建設的な対話し、解決に至ることができたか。	相対立する視点や複数の立場を考慮した上で、それらを統合・進化させた発展的結論を見出した。	相対立する視点や複数の立場を考慮して、ひとつの結論へまとめあげることができた。	一方の意見だけでなく違う意見にも耳を傾け、その上で説得したり反論したりしながら結論をまとめようと努力できた。	自らの見解があってもそれを主張せず、あるいは他人の見解をただ聞くだけで議論に参加しようとする態度が見られなかった。